

行動目標

- ① 適切な挨拶ができる。
- ② 適切な礼儀作法で接することができる。
- ③ 身だしなみ、服装に配慮することができる。
- ④ 患者がおちつくような雰囲気心がけ、自分の話し方や声に配慮を示す。
- ⑤ 面接技法を適切に使用できる。
- ⑥ 敬語を適切に使うことができる。
- ⑦ サービス提供者としての接し方や言葉使いをすることができる。
- ⑧ 患者に対しては日常語で説明するように努める。
- ⑨ 聞き手の精神状態に配慮した説明や応答ができる。
- ⑩ 全身を標準的診察手技と手順にしたがって診察できる。
- ⑪ 病歴と身体所見を診療録に正しく記載できる。
- ⑫ 得られた情報から患者の問題を身体的、心理的、社会的範疇に分けて抽出列挙できる。

実習時間

11月8日から月・水曜日の午前10時15分～12時30分(2時間15分)。

10グループに分かれて10の診療科をローテートします。

持ってくる物

白衣、名札、男性はネクタイ着用、聴診器、ハンマー、ペンライト、筆記用ボード、筆記具

実習の進め方

A. 患者さんを相手に面接、診察、診療録記載の練習ができる診療科の場合(集合場所と実習内容の表を参照)

- ① その日に実習する人をグループの中で2名決めておく。
- ② 各診療科の集合場所に集合し、担当教員の指示に従って面接、診察室に待機する。
- ③ 学生専用に正規のカルテ用紙(またはそのコピー)を人数分配布します。(もし、見学する学生がカルテ用紙をわたされなかった場合は、教員に要求してください。)
- ④ あらかじめ、学生が接することについてのインフォームドコンセントを得た患者さんが診察室周辺に待機している。

- ⑤ 教員の立ち会いのもとに、学生担当が単独で患者さんの呼び出しから、面接と診察、カルテへの記入までを連続して行う。分担、共同、途中交代などはしない。身体診察の際は、所見を口頭(できるだけ英語表現を使う)で述べながら行う。病歴は日本語で記入し、身体所見は可能な限り英語表現を使って記入すること。
- ⑥ カルテを整理し、問題を抽出列挙する。最後に署名する。
- ⑦ 他の学生は見学し、そばで聴き取りながら病歴や身体所見などを、各自のカルテ用紙に記入する。
- ⑧ 教員は、患者への接し方、面接の様子および全身の診察の様子、記載された病歴、身体所見等を観察、記録します。途中で誤りがあれば適当な区切りで指摘し、正しいやり方を指導します。更に時間に余裕があれば模範的な接し方、面接、診察等を行います。
- ⑨ 診察の後に全員で協力していただいた患者さんへ礼を述べる。
- ⑩ 疑問点について教員に質問するか、後で自己学習する。

B. 患者をあてることが不可能、または科の専門性からみて不適切な場合

担当教員の指示に従い、面接+見学、学生ロールプレイ、教員の診察の見学などを行います。(集合場所と実習内容の表を参照)

心得ておくこと

1. 実際の実習場所は外来でない場合もあります。患者実習は『面接→診察→カルテ記入→問題の抽出』という、患者さんについて全く道の状態から問題の抽出までの一連の基本的な診療が行われる一般的な場としての「外来」を想定した実習です。
2. その日の都合で、2人の患者さんを当てられないことが起こり得ます。
3. 検査などに時間がかかり、患者さんが10時15分までに診察室の前に現れない場合があります。いらっしゃるまで待機してください。
4. その日の学習目標が達せられれば、実習が早く終了することがあります。
5. 教員は面接や診察の途中でもストップをかけ、直ちに注意や指導をすることがあります。
6. 「病名をあてる」ことを目標にしていません。「十分に情報を収集し『問題』を抽出できること」までが目標です。したがって、外来検査データなどの解釈、鑑別診断、疾患

の説明などは、学習目標が達成され、かつ時間に余裕のない限り行いません。臨床医学実習で学習してください。

7. 臨床の現場で行われている身体診察の項目や手順と「基本的技法」の関係。実際に現場で行われている身体診察の項目や手順は、各科、教員個人、診察の場面状況、患者さんの状態などにより大きく異なります。多くの科では、専門的な疾病を扱う機会が多いため、場面や状況に応じて、「基本的技法」の一部または全部を省略し、専門的あるいは局所的な技法を加え、独自の診察項目の組み合わせと手順を採用しています。日頃専門的診察を行っている医師(教員)は、それぞれの立場から全身の診察における個々の基本的技法の重要性を判断していますので、考え方(技法の取舍選択)にかなりの違いが生じています。各科による項目や手順の違いにとまどったり、習っていない専門的な技法を行うように要求されて困ったりすることもあるかもしれません。まず、標準的な「基本的技法」を完璧にマスターすることを心がけ、さらに余裕があれば、専門的だが重要だと思われる技法もこの際に合わせて習得するように努めてください。専門的な診察の場合は教員が適宜指導します。

8. カルテの様式、すなわち記入項目や記入方法なども各科ごとに異なります。臨機応変に対応してください。

注意事項

1. 講義とロールプレイで学習した面接技法、身体診察技法、カルテ記入法等を、(一人ではなく)学生どうしで協力して繰り返し練習し、患者実習に参加する前までに資料を見なくてもスラスラできるようになっておく。

この実習は、実際の患者さんを対象に練習させていただき、教員による直接の助言指導を受けられる貴重な機会です。十分に練習しないまま患者さんを診察すると、立ち往生することになり、協力していただく患者さんのご好意を無にするだけでなくご迷惑をおかけする結果にもなります。また、数少ない機会であるにもかかわらず、あなたにとって今後の役に立つような指導をしてもらえないこととなります。

2. 当日直ちに集合場所に行けるように、下見するなどして、前の日までに集合場所を確認しておく。

3. 集合時間(10時15分)を厳守する。

講義が終了したら直ちに準備を整えて所定の場所へ集合してください。間に合わない人は診察室に入れない場合があります。1時限目の講義が終了時刻(10時00分)を超過して続けられている場合は、講師に事情を説明し、直ちに移動を開始してくだ

さい。(患者さんを待たせていますので。)

4. 実習の場に適切な身なり、服装に注意を払う。

教員の判断により不適切な身なり、服装の学生を退去させる場合があります。

5. 実習内容を確認してグループ内の診察の順番を決めておく。

診療科の中には局所診察のみを行う科や見学にとどめている科があります。グループ内で、1人1回は面接・診察・診療録記載という一連の練習ができるように、実習内容の表を確認の上、よく連絡しあって順番を決めて下さい。1人で3回以上診察の機会を得ることができません。

6. 教員の立ち会いがない場合。

絶対に自分たちだけで患者さんの診察を始めないで下さい。万が一のことがあった場合は、あなた方も患者さんも大変な危険にさらされる可能性があります。教員がいない時は探してください。

7. 身体所見の英語表現

身体所見は英語表現を使って診療録に記入することを求められます。あらかじめ、学習の手引きの英語表現集を学習し、また自分でも十分に調べて見ないでも書けるようになっておいてください。

8. 診療録への署名

担当した学生が診察内容を記録した診療録(カルテ)は学生による医行為の記録として保存するため回収することになっていますので、末尾に「医学部4年××××(氏名)」と署名しておいてください。

9. 見学する学生

見学する学生が記入したカルテは回収されませんが、守秘義務のため、患者さんの名前と住所などは記入しないでください。

診察の時などに、患者さんを見下ろす位置から、大勢で取り囲んでのぞき込むことがないように注意してください。

面接や身体診察の途中で横からあれこれと助言してはいけません。助言などは教員に任せて下さい。各技法についての疑問点はメモしておいて、患者さんが退室した後、まとめて積極的に質問し説明を受けてください。